



小説家。軍人。松山城下(現、松山市)出身。愛媛県尋常中学校(現、県立松山東高等学校)を経て陸軍士官学校に入学、好成績で卒業して松山歩兵第二十二連隊に入隊した。明治37(1904)年、日露戦争が始まると、歩兵第二十二連隊小隊長として乃木希典まきすけが率いる第三軍に加わり、第一回旅順総攻撃の際、機関銃で撃たれて瀕死の重傷を負った。奇跡的に助かった忠温は、実戦体験をもとに、入院中の病院で小説『肉弾にくだま』を執筆し、明治39(1906)年に出版した。悲惨な戦場が細かく描写され、また、そのような状況で戦友を気遣う兵士たちの姿が描かれたこの作品は、世界的ベストセラーとなり、イギリス・アメリカ・フランス・ドイツなど世界中で翻訳・出版され、近代戦記文学の先駆けとなった。その後、軍隊に所属しながら、また、予備役編入後も多くの著書を著した。画技にも秀でており、その絵は格

調高く雅味ある画風と評された。

略歴

明治12(1879)年 6月11日	松山城下の小唐人町 <small>ことうじんまち</small> に生まれる。
明治34(1901)年	陸軍士官学校を卒業
明治37(1904)年 4月	日露戦争に、少尉、歩兵第二十二連隊の連隊旗手として従軍
8月	歩兵中尉に昇進(旗手の任務を解かれる)
	第十二中隊小隊長として、第一回旅順総攻撃に参加。旅順口望台での戦闘で右手のほか、各所に重傷を負い、入院
明治38(1905)年 6月	歩兵第二十二連隊補充大隊へ復帰し、中隊長を命じられる。
8月	陸軍経理学校生徒隊長を命じられる。
明治39(1906)年	『肉弾』を刊行
明治41(1908)年	歩兵大尉に任ぜられる。
大正2(1913)年	『銃後』を刊行
大正5(1916)年	歩兵少佐に任ぜられる。
大正10(1921)年	歩兵中佐に任ぜられる。
大正13(1924)年	陸軍省新聞班長を命じられる。 歩兵大佐に任ぜられる。
昭和5(1930)年	陸軍少将に任ぜられ、予備役に編入される。
昭和34(1959)年	松山へ帰住
昭和40(1965)年 9月17日	86歳で永眠。墓所は松山市祝谷東町の鷲谷墓地

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・桜井忠温『肉弾』 丁未出版社 1908年
- ・桜井忠温『桜井忠温全集 全6巻』 誠文堂 1930年
- ・桜井忠温『桜井忠温 画集』 誠文堂 1931年
- ・愛媛県文化財保護協会『愛媛の先覚者6 桜井忠温・安倍能成』 愛媛県文化財保護協会 1967年
- ・木村久述典『錨と星の賦』 新評社 1980年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第12巻 秋山好古・真之・桜井忠温・水野広徳』 愛媛県教育会 1985年
- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・木村久述典『帝国軍人の反戦』 朝日新聞社 1993年

〈主な収蔵資料〉…(P225, 131~132)

〈ゆかりのある場所〉…(P311, 190)